R Alumni

校友会活動ビジョン

ビジョン

未来を生みだす、立命のきずな。
応援しよう、個のかがやきを。

行動指針

未来を信じ挑戦し、自らのボーダーを超える。
多様性を認め、楽しく相互に成長できるつながりをつくる。
循環型支援の立命文化を創る。
グローバルシチズンとして、広く社会に貢献する。
立命人としての誇りを持ち、大学の価値向上に寄与する。

立命館大学校友会は、設立100周年を機に「校友会活動ビジョン」を策定しました。
私たちはこのビジョンのもと、校友や学生一人ひとりのチャレンジを応援し、
立命館のきずなを未来につなげていきます。

りつめい
No.291／2023年8月号

発行所／立命館大学校友会／年3回発行
発行人／門川大作
編集人／山岡祐子
〒604-8520　京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel.075(813)8216　Fax.075(813)8217
URL:https://alumni.ritsumei.jp/
E-mail:alumni@st.ritsumei.ac.jp

▲ご連絡先の変更はこちらから

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni
立命館大学校友会
No.291 2023 AUGUST

巻頭特集｜特別対談　立命館大学校友会 前会長×新会長

門川大作氏が新校友会長に就任

特集

食の可能性を広げる

輝くひと

ナオライ株式会社 代表取締役
三宅 紘一郎さん
（'07 経済）

人と自然、地域を醸す酒造り。

「この地でなければつくれないものをつくりたい。それがブランドになると思いました」

広島県呉市、瀬戸内海に浮かぶ三角（みかど）島。人口20名余りの離島に本社を構え、ナオライは特産のレモンを使ったスパークリング酒「MIKADO LEMON」「琥珀浄酎」などの酒のブランドを展開している。代表取締役の三宅紘一郎さんは、温暖な気候と豊かな自然が育む島のレモンに惚れ込み、オーガニックレモンの栽培から手掛けている。

親族の多くが酒造関係という家に生まれた三宅さん。高校生になる頃には漠然と「将来は日本酒に関わる仕事をしたい」と考えていた。立命館大学に入学したのは、中国経済が熱を帯びて成長していた時期。エネルギーがあふれる街を見て「中国で日本酒を売ったら面白そうだな」と興味を持ち、1年間、上海交通大学に留学した。一方で、他大学の学生と立ち上げた「日中学生交流団体freebird」の活動にも熱心に取り組んだ。「皆が集まると、一人ではできないことができる。その感覚をつかんだことが、今につながっています」。卒業後は上海で9年間、日本酒を売り歩いた。そこで痛感したのが「ブランド」の重要性だった。

農薬も化学肥料も用いないナオライのレモン畑には、多様な植物が茂り、土壌には多くの微生物が生息する。「土壌が複雑なほど、そこで育つレモンも豊かで芳醇な香りがするんです」と目を輝かせる三宅さん。「最初はただ日本酒を造りたい一心でしたが、やればやるほど自然や環境のこと、地域や社会に対する問いが深くなってきました」。今では、酒造りを通じて地域活性化に寄与したいという思いを強くしている。ローカルを突き詰めるほど、それがブランドになり、グローバルにつながっていく。その手応えもつかみつつある。

2020年、ナオライ二作目となる新商品「浄酎」を発売した。「低温浄溜」という特許技術で日本酒をさらに蒸留し、香りと風味を凝縮した新しい酒だ。「日本酒の数だけその個性を生かした“浄酎”を造れます」と言う三宅さん。この技術で全国に数ある日本酒の価値を高め、低迷している酒蔵の再生に貢献できればと考えるようになった。「いずれは各都道府県に一つナオライの『浄溜所』を構えて、その土地でしかできない酒を造りたい。ご当地ごとに世界につながるブランドをつくり、地域に貢献することが大きな目標です」。地域に根を張りながら、日本全国、そして世界を見据えている。

撮影：岡田 一也

ナオライ株式会社 代表取締役
三宅（みやけ） 紘一郎（こういちろう）さん
（'07経済）

輝くひと 121

■ PROFILE

広島県出身。2007年、経済学部卒業。在学中に上海交通大学に交換留学し、卒業後も上海にて日本酒販売に従事する。2014年に帰国し、2015年、ナオライ株式会社を設立。2017年、スパークリングレモン酒「MIKADO LEMON」を発売。2020年に「浄酎」、2021年には「琥珀浄酎」をリリースした。立命館大学生命科学部の若山守教授との共同研究により、発酵技術を生かした新商品を開発中。

立命館大学校友会報
りつめい AUGUST 2023 No.291

03 巻頭特集 特別対談
立命館大学校友会 前会長×新会長

02 輝くひと
ナオライ株式会社 代表取締役
三宅 紘一郎さん

06 オール立命館校友の集い2023のご案内

07 特集 食の可能性を広げる

12 RITSUMEI INTERVIEW
一般社団法人日本コナモン協会 会長
熊谷 真菜さん

16 立命館の研究者たち from RADIANT
食マネジメント学部 吉積 巳貴 教授
「『食』が拓く地域の未来」

18 思い出のあの場所

19 2023年度 立命館大学校友会幹事会報告

20 つながる、ひろがる 校友会
～校友会ネットワーク～／
校友会未来人財育成基金

22 学生の活躍

24 キャンパストピックス

28 3.11復興への願い／
会報と大学・校友会の最新ニュースを
メールでお届けします！

29 立命館オンラインセミナーのご案内

30 INFORMATION
編集室から

Present

アンケートにご協力いただいた方に抽選でプレゼントをお贈りします！

掲載内容は2023年6月時点のものです。（一部特記箇所を除く）
デザイン・ディライツ広告事務所

巻頭特集 ｜ 特別対談

立命館大学校友会 前会長×新会長

門川大作氏が新校友会長に就任

――立命館大学校友会のこれからを語り合う――

このたび、10年にわたり会長を務めた村上健治氏が退任し、
新たに門川大作氏が会長に就任しました。
村上氏が託す思いと門川氏が描く校友会のビジョンについて
新旧リーダーが校友会の未来を語り合いました。

撮影：二村 海

立命館とのつながりを振り返って

村上　このたび新校友会長に就任されました。これからよろしくお願いいたします。

門川　「立命館大学があったからこそ今日の私がある」との思いがあるので、私でお役に立てるならとお引き受けしたものの、40万人におよぶ校友数や100年もの偉大な歴史を伺い、その規模やビジョン・行動指針等の取り組みの尊さに改めて驚き、今さらながら緊張しています。

村上　立命館大学との出会いは、どのようなものだったのでしょうか。

門川　私が高校時代を過ごした1960年代後半は、学園紛争の真っただ中でした。大学へ行く意味を感じられず、高校卒業と同時に京都市に就職しました。でも教育委員会に配属され、一人ひとりの子どものため、地域の学校のために懸命に頑張っている先輩たちや教育現場の先生方と出会い、目からうろこが落ちました。大学に行こうと思ったのは、その1年後です。立命館大学に夜間部（二部）があったのが、ありがたかった。入学後は夕方5時20分に職場を出て、自転車で一目散に大学へ行き、9時ごろまで授業を受けたらまた職場に戻って仕事をするという毎日でした。徹夜も多く、土日の休日もほとんどありません。あの激務でよく単位を取れたなとわれながら感心しますが、学ぶことの大切さを立命館大学で教わり、友人も得て充実した学生時代でした。今も市長として休みなく働いているのは、その延長ですね。

村上　門川会長に比べると、私は熱心な学生ではありませんでした（笑）。転機は大学4回生の時、父親が急死し、私自身も交通事故で命に関わる大けがをしたことです。そこで性根が据わりました。就職した大和ハウス工業では東京勤務が決まっていたのですが、病弱な母親を抱える家庭環境を説明し、故郷に近い岡山に赴任先を変更してもらいました。当時、岡山では西日本最大と言われた大規模な団地の開発中だったのです。そこでやんちゃな私を厳しくも愛情を持って鍛えてくれる素晴らしい上司・先輩に恵まれ、意気に感じて頑張れたと思います。

仕事が忙しかったこともあって就職後は大学も校友会も遠い存在になっていましたが、岡山から山口、広島と転勤するたび赴任地に母校愛の強い先輩がいて、「校友会に行こう」と熱心に誘われました。渋々ながら参加しているうちに、次第に立命館大学のOB・OGは根性もあり、母校愛が強く仲間思いで良いなと感じることが多くなりました。何より国際関係学部ができ、びわこ・くさつキャンパスや立命館アジア太平洋大学、さらに大阪いばらきキャンパスの開設などの大改革で大学がさらに発展し、またスポーツも強くなり後輩たちがいろんな場所で輝いていることを知るとうれしくなって、だんだん校友会の活動に力が入り、気が付いたら会長になっていたというわけです。

母校愛が尊い取り組みにつながる

村上　2013年に会長になり、私がまず力を入れたのが全国の都道府県校友会に足を運ぶことでした。各地に行くたびに、立命館ほど校友の絆の強い大学は他にないと強く感じました。そうした校友の絆を形にしようと立ち上げたのが「校友会未来人財育成基金」です。企業などから大口の寄付を募るのではなく、校友一人ひとりの気持ちをくみ取る仕組みにしようと考え、一口1,000円から寄付できるようにしました。10年間で累計3億円もの寄付が集まり、700名を超える学生さんの学びやさまざまな活動の支援に当てられています。この取り組みがここまで成長したことを誇りに思っています。今後は門川会長の下、さらにパワーアップしていただきたいと願っています。

門川　立命館大学の学生さんの、主体的な学びや社会課題解決へ熱心に活動される姿には本当に感心します。それを後押しする素晴らしい取り組みをぜひ受け継いでいきたいです。

村上　私は常々言っていますが、大学・学生と校友会は車の両輪のようなものです。大学が発展し、学生が頑張っている姿を見て、校友がどれほど喜び、勇気づけられているかわかりません。一方で校友が活躍すれば、「こんな先輩がいるのか」と学生も勇気づけられることでしょう。

門川　同感です。この30年間、立命館大学が全国、さらに世界を視野に発展されるのと卒業生の各界での活躍を見て、私も力づけられてきました。（公財）大学コンソーシアム京都の設立の際にも、立命館大学がリーダーシップを発揮。立命館大学が先頭を走ることが、京都、さらには関西地域の大学に刺激を与え、発展につながってきたと私は考えています。少子化が進む昨今にあっても京都の学生数は増え、いまや「大学・学生のまち京都」になっています。今年は文化庁が京都に移転し、文化行政は京都から全国に発信されることになりました。そこに大学が果たす役割は極めて大きいと考えています。

村上　そのためにはわれわれ校友会も頑張らなければなりませんね。全国の校友がそれぞれの持ち場で大学・学生に影響を与え、絆を深めていただきたい。私が一貫して大切にしてきたのが、校友の「緩やかな連携」です。学部やクラブのつながりはあっても、校友会には関心がないという卒業生もいます。そうした方々に「全国都道府県校友会は決して上位組織ではなく、校友をつなぐ『横串』なのです。互いを否定せず、緩やかに連携しましょう」と言い続けてきました。発信力のある門川会長がそれを引き継いでくださったら、今以上に多くの方が校友会に参加し、絆が深まっていくのではないかと思います。

門川　母校愛を持っておられる卒業生は大勢おられます。共感が行動を生み、「校友会未来人財育成基金」のような尊い取り組みに。また皆の母校愛、立命館と学生さんの「今と未来」を校友会が積極的に発信すれば、高校生らに「立命館大学で学びたい」との気持ちになってもらえると思います。そのためにこれから「情報発信」を大切にしていきたいです。村上前会長はじめ先輩方を見習いながら、新しい校友会を共々に創っていきたいと思います。

立命館大学校友会
前会長
村上健治
Kenji Murakami

1947年　愛媛県に生まれる
1970年　立命館大学産業社会学部卒業
　　大和ハウス工業株式会社入社
2004年　同社　代表取締役社長
2011年　同社　代表取締役副会長
2012年　ダイワラクダ工業株式会社　代表取締役会長
2013年　立命館大学校友会会長に就任
2016年～2023年3月　住友ゴム工業株式会社　社外取締役

立命館大学校友会
会長
門川大作
Daisaku Kadokawa

1950年11月　京都府に生まれる
1969年　4月　京都市教育委員会採用
1974年　3月　立命館大学二部法学部卒業
2001年4月～2007年12月　京都市教育委員会教育長
2008年2月～第26代京都市長
2023年6月　立命館大学校友会会長に就任

＼びわこ・くさつキャンパスで開催！／

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

オール立命館
校友の集い2023

BKC ウェルカムデーとの連携企画

オンライン交流会 2023. 10.27 FRI - 29 SUN

キャンパス企画 2023. 11.4 SAT

＼ オンライン交流会 ／

オンライン交流会では、Zoomを使用し「誰でも参加可能」と「参加対象限定」の二つの形式で実施します。オンライン交流会の幹事については、特設ウェブサイトより9月以降に募集予定です。

＼ キャンパス企画 ／

びわこ・くさつキャンパスは2024年に開設30周年を迎えます。キャンパスの躍動や学生・地域との交流、立命館の教育・研究を体感しませんか？　今年はびわこ・くさつキャンパスで開催する「BKCウェルカムデー」との連携企画を行います。「BKCウェルカムデー」は地域住民・企業・行政・学生・教職員が集い、来場者がさまざまな体験を行うイベントです。

校友会主催の企画では、トークショーやキャンパスツアーなどを予定しています。久しぶりの再会をぜひお楽しみください。

「オール立命館校友の集い2023」に関わる最新情報は、随時、特設ウェブサイトに掲載します。

▶ https://www.hajimari.info/2023/

| 特集 |

食の可能性を広げる

「食」は、農林水産業と不可分に結び付き、
地域の持続的な発展を支えている。
食料自給率の低下や食資源の減少、環境汚染など
さまざまな課題が山積する現代にあって、
多様なアプローチで
新たな「食」の可能性を追求する校友を紹介する。

撮影：P8-9 二村 海、P10-11 岡田 一也

完全閉鎖型の陸上養殖で水産資源の未来を守る。

株式会社アクアステージ 代表取締役 大谷（おおたに） 洋士（ひろし）さん（'90経済）

海のない県・滋賀で、完全な閉鎖環境での陸上養殖を成功させ、注目を集める株式会社アクアステージ。代表取締役の大谷洋士さんが開発した独自の循環型水質浄化システムを活用することで、環境に負荷をかけない養殖事業が注目を集めている。

環境に関わるビジネスに関心を持った背景には、子ども時代の思い出がある。高度経済成長期の末期に当たる1970年代前半に幼少期を過ごした大谷さん。「日本の海や川がどんどん汚くなっていくのを見て、いつかそれを解決できる仕事ができたらいいなと漠然と思っていました」と打ち明ける。

京都で祖母が暮らしていたことから、立命館大学に進学。学費と生活費を自分で賄うためにアルバイトを幾つも掛け持ちし、授業が終わる夕方から翌朝まで働く生活だった。「のほほんとした学生生活でなかったのが、かえって良かった。大学生をしながら社会とフルに関わって、多くの経験を積むことができました」

卒業後は信託銀行に就職し、都市開発やまちづくりに携わった。日本各地で工場の閉鎖が相次いだ頃だ。「まちの中心にあった産業拠点が空き地になると、まちの構造はガラッと変わってしまいます。そこに行って、新たにニュータウンをつくっていくのが仕事でした」。やりがいは大きかったが、企業の一社員としては、まちづくりに目途が立ったら後任に引き継ぎ、次の案件に移らなければならない。次第に「最後まで自分でやり遂げたい」という思いが強くなっていった。

入社10年目に仲間とともに独立し、株式会社ウイルステージを設立。まちづくりを手掛ける中で、ビオトープなどの設置に関わるようになったことが、水質浄化システムの開発につながっていく。「自社の施設にビオトープを造り、さまざまな浄化実験をして『これだ』という方法を見つけました。家で一人『やったー』と叫んだことを覚えています」。その後、縁あって京都・宇治の平等院の池の水質浄化を手掛け、皇居外苑の日比谷濠などの水質浄化にも携わり、実績を積み重ねた。この浄化システムを導入すると、水底がくっきり見えるほど水質が改善される。「これだけ多量の水を浄化できるなら、閉鎖環境での魚の養殖にも活用できるのではないか」。そう思い立ったのが陸上養殖だった。

陸上養殖の多くが川や海から水をくみ上げ、餌や排泄物の混ざった水を排出する方式であるのに対し、大谷さんが採用したのは、バクテリアを使って水中の有害物質を分解する方式だ。この方式なら汚れた水を排出することなく水質を保つことができる。「魚が病気にならないので、薬を与える必要もありません。これならどの地域でも付加価値の高い水産物を創出し、地域活性化に生かすことができます」と大谷さん。現在はトラフグやバナメイエビ、ウナギ、琵琶湖の固有種ビワマスなどを養殖し、販売まで行っている。

2022年、北海道釧路市と連携し、大手製紙メーカーの工場跡地でサケの陸上養殖試験に着手した。工場の閉鎖によって空洞化したまちの中心に養殖場を造ることで、活気を呼び戻そうとしている。かつては日本有数のサケの水揚げ量を誇った釧路市だが、近年は漁獲高の減少が深刻化している。陸上養殖が実現すれば、サケの産地として水産業を盛り返すこともできるかもしれない。「うれしかったのは、養殖設備の設置作業に行った時、地元の人が『魚の人でしょ、ニュースで見たよ』と声を掛けてくれたことです。今回の取り組みを、地元でも関心を持ってくれていることが分かり、改めてやりがいを感じました」と語る。

水産資源の枯渇や食料不足、海洋汚染などといった世界的な課題が浮き彫りになっている現代、大谷さんは大きな夢を描いている。「これまでは取る一方でしたが、計画的に生産可能な技術となる手応えを感じています。われわれが魚を食べて生きていく上で、当社の陸上養殖システムが、食料安全保障の一助になればと考えています」。また水質浄化技術を広大な海洋の浄化に生かす道筋も見えてきたという。子どもの頃に夢中になって見たテレビ番組さながらに「世界の海を助けに行く『環境サンダーバード』になれる日も近いと思っています」。

PROFILE
滋賀県出身。1990年、経済学部を卒業。信託銀行で都市開発に携わった後、独立し、株式会社ウイルステージを設立。2018年、株式会社アクアステージを設立。独自開発の水質浄化システムを活用し、完全閉鎖循環型陸上養殖事業を開始。廃校でのサバの養殖や、都市再生機構（UR）と共同で団地の空き施設での養殖実験を行う。

農場×レストランで固定種野菜の価値を最大化する。

株式会社ALL FARM 代表取締役社長 古森 啓介（ふるもり けいすけ）さん（'06法入学）
株式会社ALL FARM 取締役副社長・農場長 寺尾 卓也（てらお たくや）さん（'10政策）

東京都内に6店舗を展開するレストラン「WE ARE THE FARM」。「固定種」と呼ばれる野菜を主役にした料理がおいしいと評判を呼んでいる。レストランを運営する株式会社ALL FARM は、自社農場を保有し、無農薬・無化学肥料で固定種の野菜を育てている。

現在一般に流通している野菜は、大量生産・輸送に適するよう品種改良された「F1種」の種子によるものが主流。それに対し「固定種」は、育てた野菜から良いものを選んで種を取り、それを植えることで代々形質を引き継いでいく。その地域の風土に合った種としておいしさを受け継いできた野菜だ。

同社を共同で立ち上げたのが、古森啓介さんと寺尾卓也さん。二人の出会いは、立命館宇治高校の1年時にさかのぼる。硬式野球部で野球に熱中していた古森さんと、静岡県の親元を離れて進学した寺尾さんは、生徒寮でよく話す仲になった。立命館大学時代、「いつか一緒に仕事ができたらいいな」と語り合ったことが、後の起業につながった。

「和食居酒屋のアルバイトやいろいろな所に食べに行くことが楽しくて」と大学時代を振り返る古森さん。生活の大部分を占めていたのが「食」だった。いつしか本気で飲食業を志すようになり、「早く料理の修業をしたい」と中途退学して一路東京へ。日本料理店の板場に入り、一から料理の腕を磨いた。続いて勤めた鉄板焼店では、売上管理や新規店の立ち上げも経験した。だが「起業するとなると、どうしたらいいのか具体的な方法がわからず、動き出せないまま気が付けば23、24歳になっていました」。このままではいつまでたっても独立できない。そう思った古森さんは、連絡を取り合っていた寺尾さんに「1年後に起業しよう」と期限を伝え、起業に向けて動き出した。

寺尾さんは大学時代、8カ月間カナダのブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）に留学。「外から客観的に日本を見て、食や農業に関心を持つようになりました」と言う。帰国後は長期休みになると各地の農家に住み込みで働き、農業の面白さにのめり込んでいく。卒業後は農事組合法人に就職し、2年間さまざまな農業の知識と経験を積んだ。古森さんと起業を決めた時、「初めて自分がどんな野菜をつくりたいのかを考えた」という寺尾さん。「自分は何に感動するんだろう」と、さまざまな野菜を食べたが、少しも心が動かない。そんな時に出会ったのが「固定種」だった。「こんなにおいしい野菜を食べたことがない。自分で育てるなら、絶対この野菜だと思いました」

寺尾さんの話を聞いて、自分たちの店のキーワードに「野菜」が浮かんできたという古森さん。「『固定種を育てたいから頑張る』という寺尾の言葉を聞いて、固定種という野菜の価値を最大化するには、どんな店にすればいいのかを考え始めました」と言う。

店を出すと決めた東京から野菜の鮮度を保てる運搬距離を考え、1時間圏内の農地をすべて回った末、千葉県佐倉市に農場を確保。寺尾さんはそれから1年間、有機農家で有機農法を学び、2013年、いよいよ固定種の栽培をスタートさせた。「でも各地の風土に根付いた固定種を違う環境に植えても簡単には育ちません。畑一面に植えた苗が全て枯れてしまったこともありました」と寺尾さん。失敗しながらもさまざまな品種を育て、約150種を栽培するまでになった。

その一方で2014年、代々木上原にレストランをオープン。しかし当時野菜にこだわった店は珍しく、なかなか客足が伸びなかった。「4カ月が過ぎて資金は底を尽き、数日後に迫った支払いもできないと覚悟したその日、初めて満席になったのです」と古森さん。一度料理を食べた客の「おいしい」の声から火がつき、徐々にリピーターが増え、それがさらに新たな客を呼び込んだ結果だった。数カ月後には、予約の電話が鳴りやまないほどの人気店になっていた。

将来のさらなる成長を見据える寺尾さん。「農業もロジカルにする時代。今後はより効率化し、労働集約型から脱却していく必要があると考えています。政策科学部で経営戦略を基礎から学んだことが今に生きています」と語る。「固定種の野菜はこんなにおいしいのに、流通に乗りにくいため、当社程の規模で栽培している農家さんはほとんどいないのが現状です。でもレストランでは、それが価値になります。農場とレストランを一緒にやる。他では真似できないビジネスモデルだからこそ、どちらも持続的に成り立たせていけると考えています」と古森さん。これからも時代に即したアプローチで、野菜の新たな可能性を広げていく。

PROFILE
古森 啓介さん（左）…奈良県出身。2006年、法学部入学。日本料理店や鉄板焼店で修業を積んだ後、独立。
寺尾 卓也さん（右）…静岡県出身。2010年、政策科学部卒業。2年間、農事組合法人で農業に従事した後、起業を決意し、1年間、農業研修で有機農法を学び、独立。
2013年、二人で千葉県佐倉市に農場を開き、固定種の栽培を開始。2014 年にオーガニックレストラン「WE ARE THE FARM」を開店。2015年に法人化し、株式会社ALL FARMを設立。現在東京都内に6店舗を展開する。

RITSUMEI INTERVIEW

作って楽しく、食べておいしい。コナモンの魅力を100年先に伝えたい。

一般社団法人日本コナモン協会 会長
熊谷（くまがい） 真菜（まな）さん（'85産社）

大学時代に卒業論文で「たこ焼き」の研究を始めてから40年、
コナモン、さらには日本の食文化の普及・継承に力を注ぐ熊谷真菜さん。
食べることを愛し、旺盛な好奇心をもって今も食文化を探求し続けている。

撮影：二村 海

卒論で「たこ焼き」を調べたのが始まり

全ての始まりは、立命館大学3回生の夏、卒業論文のテーマに「たこ焼き」を選んだことでした。

大学時代は、産業社会学部の井上純一先生のゼミで学びました。卒業論文の準備を始める時、「偉い学者の先生の書いたものを引用するような文献研究ではなく、自分の言葉で書きたい」という思いが強く、「それならフィールドワークで調べるしかない」と決心しました。テーマに浮かんだのは、関西になじみが深く、私も大好きな「たこ焼き」でした。

兵庫県西宮市で育ち、幼い頃から祖母が作ってくれる、だし入りのたこ焼きが好きでした。外でも食べるようになって、ソースをつける大阪のたこ焼き、だしにくぐらせる兵庫の明石焼きと、見た目も味も家とは全然違うたこ焼きがあることを知りました。近いエリアにありながら、なぜこれほど違うのか。そこに興味を引かれ、たこ焼きの歴史を明らかにしようと決めました。当時は「食」が学問になるとは考えられておらず、いろいろな先生から「こんなの研究じゃない」と言われましたが、「絶対に調べたい」という気持ちは揺るぎませんでした。

とはいえインターネットの口コミも、ガイドブックもない時代、もちろんたこ焼きに関する学術的な文献もありません。ひたすら店を訪ね歩き、創業の経緯や味の特徴、具材や作り方の由来を聞いて回りました。けれど取材する私も、受ける方も慣れていないので、全然うまくいきません。カメラを手に声を掛けても、怪しまれたり疎んじられたりして相手にしてもらえないことがほとんどで、取材の難しさを痛感しました。

店だけでなく、たこ焼きの道具からもルーツを探りました。大阪のたこ焼き器は鋳物。明石焼きの型は、明石玉と

コナモン協会設立20周年イベントの様子

呼ばれ装飾品として用いられた人造サンゴの玉を作る道具が代用されたという説があります。それを確かめようと、型を作る工場を訪ねました。でも地面に座って銅板を打っているおじさんが怖い顔で私を見上げるので、どうしても声を掛ける勇気が出ず、二度も引き返しました。最後には「今日は絶対行くぞ」と必死で出掛けたことを思い出します。そうやって苦戦しながらも少しずつ歴史をたどり、卒業論文をまとめました。

大好きな「コナモン」を普及・継承する協会を設立

卒論を完成させたものの、たこ焼きのルーツを全て解明するまでには至らず、「まだ終われない」という気持ちがありました。卒業後は同志社大学大学院に進学し、代用食についての研究をしながら、たこ焼きの調査を続けました。ルーツや歴史、技術まで調べ尽くし、渾身の自著『たこやき』を出版した時には、10年が経っていました。

ちょうどその頃、全国的にたこ焼きブームが盛り上がりつつあったこともあり、本は想像以上に評判を呼びました。「タコヤキスト」などと呼ばれて、テレビ・ラジオへの出演や講演会、食品メーカーの商品の企画開発に携わるなど、活動の幅が一気に広がりました。全国各地に招かれ、講演会で調べたことを語ると「うちの地域にも、ありましたよ」と教えていただくことがあります。そのたびに、私の明らかにしたことはごく一部に過ぎないと感じるとともに、食文化をもっと極めたいという気持ちが大きくなりました。

「たこ焼きミュージアムをつくりませんか」と声を掛けられたのは、そんな時です。でも「ハコモノ」に人が集まる時代ではなくなっていたし、何より一つの場所に縛られるのは私の性に合いません。もっといろいろな所へ行きたいと考え、たどり着いたのが、食文化を普及する組織をつくることでした。考えてみたら、たこ焼きだけでなく、お好み焼きもパスタもうどんもラーメンも、私が好きなものは、全部「粉物=コナモン」です。そこで対象を広げ、コナモンを中心とした食文化を普及・継承していくことを目的に、2003年、「日本コナモン協会」を発足しました。

「カリ、トロ、プリ」多彩な食感が魅力

コナモンの面白いところは、形や味を自由に変えられることです。もんじゃ焼きからたこ焼き、お好み焼き、うどんにパスタ、パン、さらにはクッキーまで、加水によっていろいろなものになり、乳幼児から高齢者まで食べられます。私が好きなおいしさは、家庭で作れるものの中にこそ隠れています。庶民でも工夫次第でこんなにもおいしいものができる。そんな無限の可能性がコナモンの魅力です。高級料理ももちろんおいしいけれど、庶民が精いっぱい頑張って出したお金で食べる一皿のおいしさには、きっとそれとは比べものにならない大きな価値があると思います。

加えてコナモンのおいしさの秘密は、その多彩な食感にあります。例えばたこ焼きには、かじった時の「外側のカリ、中のトロ、そしてタコのプリ」と、いくつもの食感があります。コナモンのおいしさとは何なのかと考えに考え、「これだ」と発見しました。

「たこ八」道頓堀総本店にて

難しいのは、それをいかに多くの人に伝えるかです。食に対するリテラシーや何をおいしいと感じるかは人によって違います。その中でも、できるだけわかりやすく、親しみやすく伝えたいと、いつも考えています。「粉物」を「コナモン」と表したり、今では当たり前になっている「カリ！ トロ！」という表現も、実は私が最初に言い始めました。

日本コナモン協会を設立後は、コナモンの食文化を普及・継承するために、思いつく限りのことに取り組んできました。2012年には、たこ焼きの文化を世界に発信しようと、大阪・道頓堀にあるたこ焼きの有名店を集め、協会主宰で「道頓堀たこ焼連合会」を立ち上げました。以来、全国のたこ焼き店を巡り、SNSで紹介しています。同じ時期に思いついたのが、新しい食文化となる大阪の新名物をつくることです。そこでコナモンの人気店やソースメーカーなどに呼びかけ、「道頓堀やきそば」を開発しました。特製の超極太麺に関西ならではのだしと濃厚な「道頓堀ソース」を絡めた一品。今では約60店舗で食べられます。

食文化に関わる以上、見たり聞いたりするだけでなく、「必ず食べること」が私の信念です。口に入れて味わうことはもちろん、最後まで食べて、脳で、さらには腸でも味わいます。時には1日5軒、10軒とお店を回ることもありますが、全然平気です。からあげグランプリの審査ではひと月で140社、約10kgの試食をしています。それができるのも親譲りの強い胃袋のおかげだと、ありがたく思っています。

「何でもやってみたい」と片っ端からやって、目が回りそうに多忙な日々。食べることが大好きで、あふれる好奇心が私の原動力です。海外も20カ国以上に赴き、その土地のコナモンを食べ、食文化に触れてきました。さまざまな食との出会いを全力で楽しむ様子をYouTubeでも配信しています。2022年はヨルダン、ベトナムを訪問。今年の夏にはモンゴルへ行く予定です。

庶民の知恵を歴史に刻むことが役割

2013年に和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、17年には文化芸術基本法に「食文化」が明記され、21年には文化庁が地域で受け継がれてきた食文化を「100年フード」と名付けて継承していく取り組みをスタートさせました。食文化に関わり始めて40年、ようやく普及・継承していく環境が整いつつあると感じています。

「100年フード」事業の一環として、2022年にはお好み焼きなどの「鉄板コナモン」を未来に継承するための「鉄板会議2022」を全国各地で開催しました。大阪で開催した全国大会では、お好み焼きを返す道具の名前が議論の焦点に。コテかヘラかテコかで、熱く盛り上がりました。

これから力を入れていきたいのが、日本各地の郷土料理や固有の食文化を記録していくことです。とりわけ関心を持っているのが、家庭の食文化です。各家庭で親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた「食」を次代に残してほしい。手に入れやすい材料で、作りやすくて、しかもおいしい。これが「食」の本道だと思います。それを記録することは、庶民の知恵を歴史に刻むことだと考えています。

ヨルダン、ペトラ遺跡近く、石焼きオーブンでパンの原型ホブズを習う

たこ焼きも、安く手に入るタコや、不要になった工業用の鋳型を利用して作られたのが始まりでした。ところが今、タコが不漁で価格が高騰するなど、これまで通りの「庶民の味」を継続するのが難しくなっています。100年先まで継承していくために、その成り立ちを記録し、人々が知恵を絞ってつくり上げてきた歴史を残していく。それが私の役割だと思っています。やりたいことは尽きません。まだ60歳を過ぎたところ。あと30年は頑張るつもりです。

PROFILE

一般社団法人日本コナモン協会 会長

熊谷 真菜さん

兵庫県出身。立命館大学で「たこ焼き」をテーマに卒業論文を執筆。同志社大学大学院を修了後も調査を続け、1993年、初の研究書『たこやき』(リブロポート刊、後に講談社文庫)を出版した。たこ焼き研究の第一人者として、全国や世界に広がりを見せるたこ焼きのフィールドワークを続けている。2003年、日本コナモン協会を設立。コナモンをはじめ食文化の継承に尽力する。一般社団法人全日本・食学会理事。『大阪たこ焼33ヵ所めぐり』(西日本出版社、共著)、『「粉もん」庶民の食文化』(朝日新聞出版)など著書も多数。

“活動を通じて立命館大学の先生とのつながりも広がっています。食マネジメント学部の和田有史教授には鉄板会議に参画いただいたり、石田雅芳教授のイタリア食文化紀行にも興味津々です！”

立命館大学の研究部から発行されている研究活動報『RADIANT』。今号は『RADIANT』に掲載された研究内容をご紹介します。

「食」が拓く地域の未来

滋賀県の豊かな食資源を持続可能な地域づくりに生かす

滋賀県・近江盆地の中心に広がる日本最大の湖・琵琶湖。京阪神地域に住む1,400万人以上の人々の生活を支える水源であるとともに世界有数の古代湖であり、多様な固有種が生息する独自の生態系を今なお維持している。周辺地域ではこの水の恵みを生かした農業や漁業が発達し、豊かな食資源や食文化が現代に受け継がれている。

「ところがこうした美しい自然や豊かな食資源の素晴らしさが、全国の人はもちろんそこに住む人にもあまり知られていない現状があります」。そう指摘する吉積巳貴は、地域資源を活用し、住民主体で持続可能な地域づくりを行う方法を研究している。これまで国内外のフィールドで、その土地の魅力や資源を生かすアクション・リサーチを実施してきた。

2018年からは滋賀県北西部にある高島市と連携し、高島市の農林水産資源を再評価して新たなビジネスの創出や地域の持続的発展につなげる試みに取り組んでいる。2019年、立命館大学食マネジメント学部の研究者や学生とともに、高島市の高島、安曇川（あどがわ）、今津、朽木（くつき）、マキノ、新旭の地区で食資源に関する実態調査を実施した。「農業・漁業従事者から食品加工業者、飲食店やスーパーマーケットといった小売り事業者まで、食産業に携わるさまざまな人々へのインタビュー調査を通して、食に関する情報の掘り起こしや食資源の再評価を行いました」

中でも新旭地区での食資源調査で吉積らが注目したのが、豊かな水源を活用する仕組み「カバタ（川端）」である。吉積が指導する学生が収集した文献・資料によると、新旭町針江地区では2010年の時点で110ものカバタが機能している。「カバタは、比良山系から流れてくる地下水を民家に引き込み、生活に利用するこの地域独特の仕組みのことです。家の内外に作られた水場（外カバタ・内カバタ）は、収穫した野菜の土落とし、野菜や果物の冷却、調理器具や食器の漬け置きなど、実に幅広い用途に使われています」

しかしライフスタイルの変化に伴って次第にカバタは姿を消しつつあるという。それに対し吉積は「カバタのある住まいや暮らしは持続可能な循環型社会のモデルとなり得る」と、新たな視点で評価する。「カバタの水温は一年中15℃前後と一定です。夏は冷たく冬は温かい。特に冬場は、外がいてついてもカバタのおかげで家の水は温かく、湯沸かし器などがなくても快適に炊事をすることができました。また数十年前までは、カバタに漬けた鍋や皿に付着した残飯をコイが食べ、カバタの水を使って耕す家の畑に、生ごみをまいて肥料にする慣習があり、カバタを中心に今でいう『廃棄物ゼロ』の生活が実現していました。現代でも学ぶべきところがあります」と説明する。

加えて吉積らは、カバタを活用した食産業や食資源の事例も収集し、再評価している。「例えば針江地区で130年以上営業している豆腐店では、大豆を柔らかくするためにカバタの水を活用しています。また約160年の歴史を持つ造り酒屋では、酒造りに欠かせない仕込み水に湧水を利用しています」。こうした「カバタの水」という付加価値がどのように認知され、食ビジネスの創出につながっていくのか、吉積はカバタと食産業との関係を明らかにした。「事業者の方々は大変な努力で付加価値を生み出しているにもかかわらず、それが認知されていないことが、地域の人々と食資源が離れる一因になっています。私たちの調査結果を地域に発信することで、地域の人々の認知や理解を高めていく必要があると改めて実感しました」。調査結果は高島市に提供され、地域の食産業政策に生かされている。

また吉積らは、琵琶湖で取れる湖魚についても詳細な調査を行った。背景には若い世代を中心に湖魚を食べる習慣がなくなり、需要が減少しているという課題がある。「豊かな湖魚食文化を次代に継承していく仕組みや方法を見いだすため、湖魚食の新しい可能性を探りたい」として、琵琶湖の伝統的な漁業と湖魚食文化、さまざまな湖魚の販売推移や消費動向などを調査。水産加工・販売業者・外食事業者らが湖魚の消費拡大に向けて取り組んでいる事例を集めた。「創業から230年以上を数える老舗のふなずし店が『ふなずしを使ったパスタ』を開発し、現代の食習慣に合った食べ方を提案するなど、革新的な取り組みを発見しました」。現在は調査範囲を滋賀県全域に拡大。湖魚食の実態を捉えるとともに、湖魚を使った新たなレシピを開発して飲食店に提案するなど湖魚食文化を広げる可能性を模索している。

さらに吉積の関心は、観光業との連携や人材育成にも広がっている。高島市の観光協会と連携し、高島市をフィールドにSDGsについて学べる教育旅行を企画し、観光・教育事業に着手した。「SDGs人材、環境人材の育成につながる環境学習プログラムの開発に向けた研究も行っています。行政、農家や漁師の方々、企業、住民の方々などと連携し、学生が地域で学べる場をつくるだけでなく、教育を通じて地域にも貢献できる仕組みを考えていきたい」と展望している。

立命館大学研究活動報『RADIANT』(ISSUE19 地域/Regional,pp.4-5,2022.11)より一部変更し、転載

RADIANT（ラディアント）は、立命館大学の多様な研究活動を紹介する研究活動報として2015年11月に創刊号（特集：アジア）を発行し、今年で9年目を迎えます。RADIANTは、「光を放つ、光り輝く」という意味を持つ形容詞です。今後、立命館大学の研究成果が光り輝く未来を生み出す一歩に、また、これからの世界を照らす一助になるという意味が込められています。今後も一つのテーマを切り口に、立命館大学で展開されている研究を幅広く紹介していく予定です。

▶www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/

吉積 巳貴（よしづみ みき）教授
食マネジメント学部

研究テーマ：持続可能な食と地域づくり
専門分野：環境政策、環境教育、地域づくり

思い出のあの場所 No.002

鴨川の岸辺と旧広小路体育館界隈

2023年5月撮影

広小路キャンパスに近い小さな体育館が、バドミントン部の練習場所でした。すぐ裏には鴨川が流れ、岸辺はランニングコース。遠くに比叡山などの東山や北山が見え、春には満開の桜が見事でした。河川敷に等間隔で座るアベックを横目に、息を切らしながら走っていた日々を懐かしく思い出します。

荒神橋のやや上流にあるベンチは、立命館大学OBの源孝志さんが脚本・演出されたNHK BSの番組「京都人の密かな愉しみ」にも登場します。

近くの河原町今出川には「玉蘭」「ジャルダン」などいかにも昭和の名前の食堂や喫茶店がありました。中でも「なかじま食堂」は、紙に名前を書いて注文すると、バイトの女子学生が「○○さん」と呼び、食事を運んでくれて人気でした。

令和元年の暮れ、約30年ぶりに同期部員が集まり、センチメンタルジャーニーを楽しみました。昔のままの姿で残っていた体育館。鴨川の岸辺では、向こうから遠い日の自分が走って来るようでした。

髙野 照久（'83産社）

「思い出のあの場所」に投稿しませんか？

「思い出のあの場所」では、校友の皆さまからの投稿をお待ちしています。詳細については右の二次元コードからご確認ください。

※事務局にて投稿内容を確認し、掲載する場合のみご連絡を差し上げます。掲載に関するお問い合わせにはお答えできません。
※原稿は掲載時に修正が加わる場合がございます。あらかじめご了承ください。

①思い出の場所の紹介文（350字程度）
立命館のキャンパス（広小路・衣笠・BKC・OIC・朱雀）、またはその周辺とします。

②執筆者の方のお名前、卒業年、学部（ペンネーム可）

③紹介文に関する画像1点
（印刷のため高解像度の画像をお願いいたします）
※人物が写っている場合には、必ず本人の承諾を得た上でご投稿ください。

投稿はこちらから！

https://alumni-ritsumei.smktg.jp/public/seminar/view/1243

2023年度 立命館大学校友会幹事会報告

2023年6月3日、「2023年度 立命館大学校友会 幹事会」を朱雀キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催し、218名の校友会幹事が出席しました。

議事では、村上会長が議長として選出された後、全ての議案が幹事へ報告され、審議事項についてはいずれも拍手をもって承認されました。また、今回の幹事会を節目に、10年にわたり会長を務めた村上健治氏が退任し、新たに門川大作氏が就任しました。

幹事会終了後は、国際関係学部小林主茂准教授による「アカデミック講演会 グローバル国際関係学から考えるロシア・ウクライナ戦争」、「校友会未来人財育成奨励金受給団体報告会」、「都道府県校友会、学部・学系校友会会長会議」を実施しました。校友会未来人財育成奨励金受給団体報告会には、過去に奨励金を受給した校友なども参加し、現役学生との交流を深めました。

報告事項

1. 2023～2025年度 立命館大学校友会役員の選任について
2. 立命館大学校友会 名誉校友の選任について
3. 立命館大学校友会 顧問の選任について
4. 立命館大学校友会 新卒幹事の選任について
5. 2023年度校友大会
「オール立命館校友の集い2023」の開催について

議決事項

1. 2022年度事業報告および2022年度決算報告について
2. 2023年度事業計画案および2023年度予算案について
3. 学校法人立命館評議員候補者の推挙について

2022年度決算

（単位：円）

●収支決算書（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

●経常収入の部

科　目	決算額
会費収入	220,650,000
資産運用収入	112,969
組織強化事業収入	100,000
校友大会事業収入	0
広報事業収入	25,842,950
社会貢献事業収入	0
その他収入	12,530
経常収入合計	246,718,449

●経常支出の部

科　目	決算額
組織強化事業支出	35,381,486
校友大会事業支出	28,596,517
広報事業支出	77,376,483
母校支援事業支出	11,700,078
社会貢献事業支出	0
管理費支出	25,504,563
経常支出合計	178,559,127
経常収支差額	68,159,322

●貸借対照表（2023年3月31日現在）

●資産の部

科　目	決算額
流動資産	
現金預金	176,870,324
前払金	16,520
未収金	516,952
固定資産	
定期預金	550,000,000
資産合計	727,403,796

●負債の部

科　目	決算額
流動負債	
未払金	25,570,491
預り金	97,860,000
負債合計	123,430,491

●正味財産の部

科　目	決算額
一般正味財産	603,973,305
正味財産合計 （うち当期正味財産増加額）	603,973,305 （68,159,322）
負債及び正味財産合計	727,403,796

2023年度予算

（単位：円）

●収支予算書（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

●経常収入の部

科　目	予算額
会費収入	231,600,000
資産運用収入	120,000
組織強化事業収入	200,000
校友大会事業収入	0
広報事業収入	26,100,000
社会貢献事業収入	0
その他収入	30,000
経常収入合計	258,050,000

●経常支出の部

科　目	予算額
組織強化事業支出	54,780,000
校友大会事業支出	25,000,000
広報事業支出	88,000,000
母校支援事業支出	40,500,000
社会貢献事業支出	700,000
管理費支出	48,120,000
経常支出合計	257,100,000
経常収支差額	950,000

つながる、ひろがる 校友会

新型コロナウイルス感染症対策による対面活動での制限がなくなり、多くの校友会が対面開催を予定しています。
つらく苦しい時期を乗り越えたからこそ、校友同士のつながりが一層深まる活動を行っています。

2023/2/11(土)
ユネスコ研究会OB会 総会
立命館大学衣笠キャンパス

2023/2/18(土)
体育会自動車部OB会 総会
ホテルグランヴィア京都

2023/2/19(日)
香川県校友会 小豆島支部 設立総会
イマージュセンター

2023/3/11(土)
東京校友会 2022年度 校友大会
立命館東京キャンパス

2023/3/18(土)
和歌山県校友会 総会
ダイワロイネットホテル和歌山

2023/3/23(木)
ニューヨーク校友会 春の校友懇親会
マンハッタンE57「Land of Plenty」

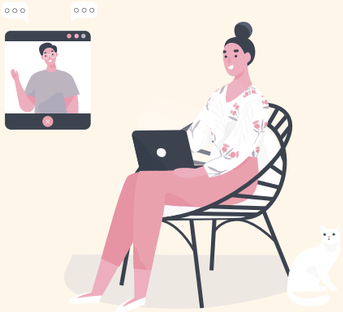
2023/4/6(木)
RIMIXサポーターズクラブ 設立総会
立命館東京キャンパス

2023/4/22(土)
愛知県校友会東三河会 総会
ホテルアソシア豊橋

2023/4/29(土)
石川県校友会 例会
金沢ニューグランドホテル

2023/5/13(土)
マレーシア校友会 懇親会
クアラルンプール近郊

2023/5/20(土)
北海道校友会 総会
ホテルマイステイズ札幌アスペン



～校友会ネットワーク～

各校友会の活動や
今後のイベント予定は
校友会ホームページを
ご覧ください

行事報告

※2023年7月までに行われた各団体の行事の一部を紹介しています。

日程	校友会・グループ	会場
2023/5/23(火)	亀岡校友会 総会	宮本屋
2023/5/26(金)	愛媛県校友会宇和島支部 総会	かどや 駅前本店
2023/5/28(日)	奈良県北部校友会 総会	ホテル日航奈良
2023/6/3(土)	ウリ同窓会 総会	東華菜館
2023/6/4(日)	RIMO 総会	立命館大阪梅田キャンパス
2023/6/7(水)	高槻市役所槻立会 総会	アンシェルデ・マリアージュ
2023/6/10(土)	法学部同窓会 総会	ホテルグランヴィア京都
2023/6/10(土)	法学部商法塩田ゼミOB・OG会	ホテルオークラ京都
2023/6/17(土)	東北海道校友会 総会	北海道ホテル
2023/6/24(土)	北九州校友会「オール立命館校友の集い2023 in 北九州」	リーガロイヤルホテル小倉
2023/6/24(土)	技術士会 総会	中央電気倶楽部
2023/6/24(土)	兵庫県西宮支部 総会	日本盛 酒蔵通り煉瓦館
2023/6/24(土)	リコネクト東京・東京校友会 新社会人歓迎会 東京ウェルカムパーティー	dining & bar KITSUNE
2023/6/25(日)	アメリカンフットボール部創部70周年記念式典	立命館大学びわこ・くさつキャンパス
2023/6/30(金)	京都建設会 総会	都ホテル 京都八条
2023/7/1(土)	経営学部校友会 総会	都ホテル 京都八条
2023/7/1(土)	山口周南地区校友会 総会	ホテルサンルート徳山
2023/7/2(日)	山形県校友会 総会	ホテルメトロポリタン山形
2023/7/8(土)	岩手県校友会 総会・創立30周年記念式典	ホテルニューカリーナ
2023/7/15(土)	滋賀県校友会 総会	ホテルボストンプラザ草津
2023/7/22(土)	青森県校友会 総会	ウェディングプラザ アラスカ
2023/7/22(土)	香川県校友会 総会	ホテルパールガーデン
2023/7/29(土)	宮城県校友会 総会	仙台ガーデンパレス

今後の行事予定

※2023年8月～12月に開催が予定されている総会等を紹介しています。

日程	校友会・グループ	会場
2023/8/27(日)	静岡県校友会 総会「Rits静岡 校友の集い」	ホテルシティオ静岡
2023/8/27(日)	岡山県校友会 総会	アークホテル岡山
2023/8/27(日)	愛媛県校友会 総会	ANAクラウンプラザホテル松山
2023/9/2(土)	新潟県校友会 総会	メディアシップ 日報ホール
2023/9/2(土)	熊本県校友会 総会	鶴屋カーネーションサロン
2023/9/9(土)	秋田県校友会 総会・設立30周年記念大会	秋田キャッスルホテル
2023/9/20(水)	広島県校友会 総会「広島県校友大会2023」	ANAクラウンプラザホテル広島
2023/9/23(土)	大阪校友会 総会	ホテルグランヴィア大阪
2023/9/30(土)	埼玉県校友会「彩の国・校友の集い」	立命館東京キャンパス
2023/10/7(土)	三重県校友会 総会	プラザ洞津
2023/10/21(土)	数物会 総会	立命館大学びわこ・くさつキャンパス
2023/11/11(土)	愛知県校友会 総会	名鉄グランドホテル
2023/11/11(土)	沖縄県校友会 総会	メルキュールホテル沖縄那覇
2023/11/18(土)	福岡県校友会「オール立命館福岡県校友の集い」	ソラリア西鉄ホテル福岡
2023/11/18(土)	鹿児島県校友会 総会	鹿児島サンロイヤルホテル
2023/11/19(日)	宮崎県校友会 総会	ホテルメリージュ
2023/11/19(日)	文学部校友会 総会	ホテルオークラ京都
2023/12/2(土)	石川県校友会 総会	金沢ニューグランドホテル
2023/12/2(土)	奈良県校友会 総会・ファミリー会	ホテル日航奈良

※2023年5月23日時点で事務局に寄せられた情報に基づき掲載しています。

校友会未来人財育成基金

校友会未来人財育成基金の実績(2023年5月31日時点)

4,937の個人・団体・法人から
317,575,979円

お問い合わせ先(受付時間 土日祝を除く 9:30～17:00)

校友会未来人財育成基金に関しては
立命館大学校友会事務局
075-813-8216

寄付の受け入れ、税制上の優遇措置に関しては
立命館 総務部 寄付事務局
075-813-8110

立命館大学 SPORTS & CULTURE

学生の活躍

[2023 JANUARY～APRIL]

最新情報は
こちらを
チェック！

SPORTS

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

サッカー部（男子） ❶

3月3日、体育会サッカー部（男子）の中野瑠馬選手（産社2）が、2025シーズンにJリーグ・京都サンガF.C.へ加入することが内定しました。なお、中野選手は、2023シーズンは「2023年JFA・Jリーグ特別指定選手」として登録され、Jリーグ等の公式試合に出場可能です。

女子陸上競技部 ❷

3月19日、石川県能美市で開催された「第47回全日本競歩能美大会」女子20㎞競歩にて、女子陸上競技部の柳井綾音選手（食マネ1）が1時間30分58秒のタイムで優勝。日本歴代9位、学生歴代2位となる好記録を残しました。

❸

4月21～23日、レモンガススタジアム平塚（神奈川県）にて、ワールドユニバーシティゲームズの代表選考会を兼ねた「2023日本学生個人選手権」が行われ、女子400mHで日本選手権2連覇中の山本亜美選手（スポ健3）が優勝しました。

CULTURE

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

Focus on ❹

2月3日、霞山会館（東京都）で行われた「第19回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で、森本陽加里さん（産社2）が代表を務めるチーム「Focus on」が日刊工業新聞社賞を受賞しました。

バトントワリング部 ❺

3月24～26日、浜松アリーナ（静岡県）で開催された「第48回全日本バトントワーリング選手権大会」にて、バトントワリング部の日置大和選手（経済1）が「スリーバトン 男子シニア」の部で優勝し、日本1位になりました。その結果を受け、2023年8月に英国のリバプールで開かれる世界大会に出場します。

行動認識国際コンテスト ❻

動画像に写っているさまざまな作業工程をAIモデルが認識・判別し、その精度を競う、行動認識国際コンテスト「OpenPack Challenge 2022」にて、CHAI Shurongさん（院情理2）が世界3位入賞を果たしました。

地域と連携した取り組み ❼

「2022年度シチズンシップ・スタディーズ 草津ブランド新商品開発プロジェクト」を受講した学生が、クサツエストピアホテル（滋賀県草津市）と連携し、草津市の特産品「草津ブランド」に指定されている農産物を使った食事メニューを開発しました。

❽

びわこ・くさつキャンパス（BKC）近隣地域の草津市野路町にある新宮神社にて例祭が行われ、中国・ベトナムからの留学生や、のじのじカフェフードバンクでスタッフとして活躍している理工学部都市計画研究室の学生、BKC地域連携課の職員らが神輿の担ぎ手（力士）として参加しました。

❶

❸ 提供／月刊陸上競技

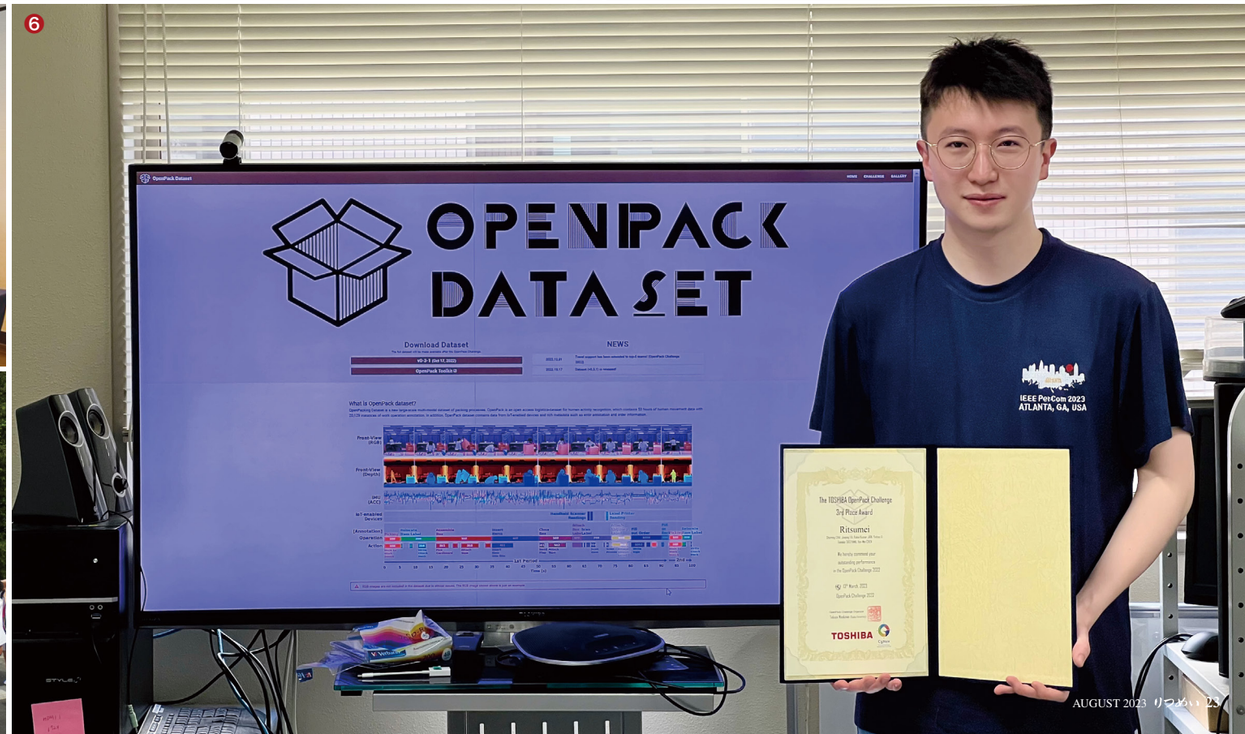
❺

❷

❹

❼

❽



❻

CAMPUS TOPICS キャンパストピックス [2023 JANUARY~MAY]

最新情報はこちらをチェック！

撮影：森清／講談社

公認会計士試験54名合格 西日本で5年連続1位 ❶

2022年度公認会計士試験（論文試験）において、立命館大学出身の合格者は54名となり、大学別合格者ランキングで全国5位、西日本で5年連続1位となりました。立命館大学では、合格実績の高い専門学校が提供する低回生向け学内プログラムの実施をはじめ、特別奨励生試験や専用自習室の提供、会計士校友会や在学生合格者による相談会、監査法人交流会などを通して、公認会計士を目指す学生のキャリア支援に取り組んでいます。

科研費の採択件数・配分額ともに過去最高 西日本の私立大学で1位を記録

文部科学省が発表した「令和4年度科学研究費助成事業（科研費）」において、立命館大学は採択件数692件、配分額13億4,288万円と、いずれも過去最高を記録。西日本の私立大学で1位を獲得しました。本学は「立命館大学チャレンジ・デザイン」の前半期（2025年度まで）の目標に、「社会共生価値を創造する次世代研究大学の実現」を掲げています。今後さらに研究基盤の強化と特色ある研究プロジェクトの推進を強化していきます。

3年ぶりに対面でSKP修了式を開催 短期留学生約90名が修了 ❷

1月20日、短期留学プログラム「SKP（Study in Kansai program）」の修了式を3年ぶりに対面で開催しました。修了式には、2022年秋学期から立命館大学で学んできた留学生約90人が参加。日本語の勉強はもちろん、書道や三味線、陶芸などの日本文化に触れた留学生活を振り返りました。中戸祐夫国際部長（国際関係学部教授）の挨拶に続いて修了証書が授与された後、大島弥生SKPコーディネーター（経営学部教授）が祝辞を述べ、留学生の今後の活躍に期待を寄せました。

ChatGPTと機械翻訳を組み合わせた 学習ツールを大学の英語授業に試験導入 ❸

生命科学部・薬学部で展開する「プロジェクト発信型英語プログラム（PEP）」の英語授業の一部において、2023年春学期から、OpenAI 社の人工知能チャットボット「ChatGPT」と機械翻訳を組み合わせた英語学習ツール「Transable」を試験導入しました。本取り組みを通じて、AI 技術の活用による教育効果の向上を図るとともに、学習成果や学生の心理面の変化を検証し、新しい時代の大学英語教育の在り方を探究します。

第108回薬剤師国家試験 新卒合格率私立大学1位を獲得 ❹

2月に実施された第108回薬剤師国家試験において、立命館大学薬学部の新卒合格率は98.98%となり、大学別合格者数による合格率（厚生労働省発表）で全国2位、私立大学1位（新卒の受験者を分母とした合格率）となりました。薬学部では、正課の授業だけでなく、薬学科生専用の自習室の提供、エクステンションセンターと連携した学内プログラムの実施などを通して、薬剤師を目指す学生を支援しています。

先端総合学術研究科千葉雅也教授の著作 『現代思想入門』が「新書大賞2023」大賞を受賞 ❺

2月10日、「新書大賞2023」（主催：中央公論新社）が発表され、先端総合学術研究科千葉雅也教授の著作『現代思想入門』（講談社、2022年）が大賞を受賞しました。同賞は、2021年12月～2022年11月に刊行された1,200点以上の新書から、有識者、書店員、各社新書編集部、新聞記者など106名の投票によって選ばれたものです。千葉教授は受賞の喜びとともに「本書が書物との出会いを広げるきっかけになることを願っています」とコメントしました。

2022年度立命館大学卒業式 大学院学位授与式を挙行 ❻

3月20～22日、衣笠キャンパス、大阪いばらきキャンパス、朱雀キャンパス、びわこ・くさつキャンパスで、2022年度立命館大学卒業式・大学院学位授与式を挙行。学部生6,633名、大学院生1,240名が新たな進路へと巣立ちました。今年度は、各会場に学生や家族が列席する形式での実施となりました。式典では、仲谷善雄学長が卒業証書・学位記を授与し、「新たなことに勇気を持って挑戦し続けてください」と力強いエールを送りました。

CAMPUS TOPICS キャンパストピックス【2023 JANUARY~MAY】

最新情報はこちらをチェック！

教職大学院と京都市教育委員会が連携 学びと実践を両立する制度をスタート ❼

立命館大学教職大学院と京都市教育委員会が覚書を締結し、4月より、立命館大学教職大学院に在学しながら、京都市立学校で非常勤講師として働ける制度を開始しました。本制度は、大学院での学びと学校現場での実践の両立を可能にするものです。京都市では初めて、全国的にも珍しい先駆的な取り組みで、優れた教師養成のモデルの一つになると期待されています。

2023年度立命館大学および大学院の入学式を挙行 ❽

4月2日、京都市勧業館「みやこめっせ」にて、2023年度立命館大学の入学式を挙行。4月4日、大阪いばらきキャンパス、びわこ・くさつキャンパス、朱雀キャンパスの3会場で、2023年度立命館大学大学院の入学式を挙行しました。今年度は、新入生・ご家族の出席が可能な形態で実施し、学部生8,439名、大学院生1,555名を歓迎しました。また大学院単独での入学式開催は、今回が初めてとなりました。

オープンイノベーション拠点構築の取り組みが 経済産業省の拠点整備事業に採択

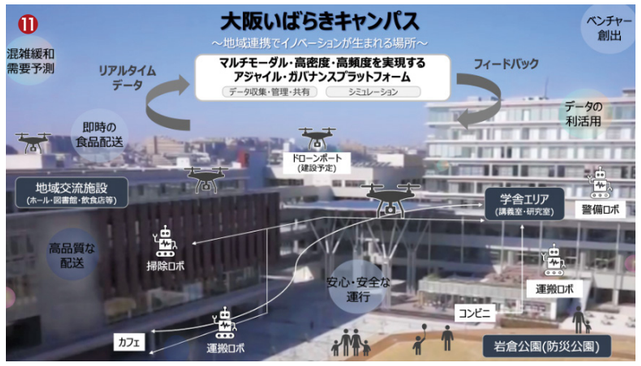
立命館大学は、経済産業省「令和4年度地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備（大学等向け）」に採択されました。本学の提案は滋賀県・草津市などと連携して進めている「地域社会とともに価値創出を行う総合的イノベーション拠点形成」の実現に向けた取り組みの一つです。今後、オープンイノベーション拠点「グラスルーツ・イノベーションセンター（仮称）」設置に向け、仕組みづくりを進めていきます。

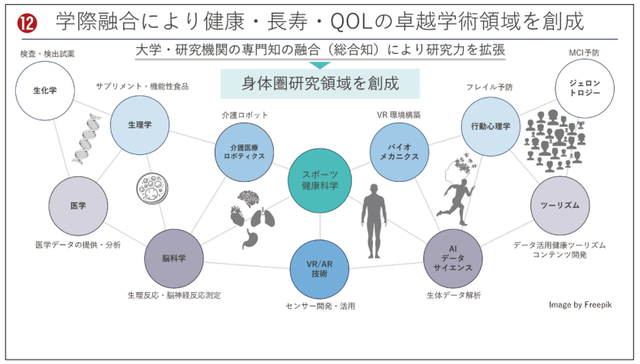
世界初・カーボンナノチューブを認識する 免疫受容体の発見

山口慎一朗さん（院薬博士後期1）、謝祺琳さん（'23院生命）、生命科学部の笠原浩太助教（JT医薬総合研究所研究員）、薬学部の中山勝文教授らの研究チームが、世界で初めてカーボンナノチューブ（CNT）を認識するヒト免疫受容体を発見しました。これによりCNTが炎症を引き起こす機構の一端を解明しました。研究成果は、4月7日（日本時間）、イギリスの科学雑誌「Nature Nanotechnology」に掲載されました。

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ（特色型）」で最高評価を獲得

3月30日、2016年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の事後評価が発表され、立命館大学は最高評価に当たる「S評価」を獲得しました。学長・総長のリーダーシップの下、効果的な事業実施体制を構築し、法人・教学一体となって女性研究者の活躍を推進し、目標を超える成果を挙げたことが高く評価されました。今後も事業の継続と発展を図っていきます。





「立命館先進研究アカデミー（RARA）」にて 大学の研究をけん引するフェローを任命 ❾

3月30日、立命館大学はトップレベルの研究者が集う「立命館先進研究アカデミー（RARA）」の第2期任命式を行いました。本学の研究をけん引する中核研究者として6名を「RARAフェロー」に任命し、5年間にわたりテーラーメードで支援していきます。フェローには、優れた研究成果を国内外に発信していくとともに、Nodes（人や研究をつなぐ結合点）となり、そのネットワークを拡大しながら、先進研究を大きく前進させる役割が期待されます。

学校法人立命館と日本放送協会大阪放送局が 連携・協力協定を締結 ❿

3月30日、学校法人立命館と日本放送協会大阪放送局（以下、NHK大阪放送局）は、両者の有する人材や知識、情報面での資源を連携させ、教育・研究の一層の高度化と新たな社会連携の枠組みの構築を目指し、連携・協力に関する協定を締結しました。森島朋三理事長は、「デジタル技術や映像技術、メディア・芸術表現などの研究・人材育成をより高度化するため、NHK大阪放送局との協定は大きな推進力になる」と提携の意義を語りました。

自律移動ロボット普及を目指す NEDOに採択されたプロジェクトを始動 ⓫

学校法人立命館は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「産業DXのためのデジタルインフラ整備事業／複雑なシステム連携時に安全性及び信頼性を確保する仕組みに関する研究開発」（実施期間2022年度～2024年度）に採択され、プロジェクトを始動しました。ソフトバンク株式会社及び株式会社ネクスティ エレクトロニクスとともに、自律移動ロボット普及・イノベーション加速に向けた研究を進めていきます。

文部科学省の施設整備事業に採択 新たな研究フィールド構築を推進 ⓬

立命館大学は、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択されました。これを受け、新たに「立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ（Ritsumeikan Advanced Cross-verse Innovation Commons）」（仮称）をびわこ・くさつキャンパスに整備し、空間・時間・意識・環境が交差する（クロスバース）研究フィールドを構築します。医療、薬、保険、経済、ロボティクスなどの企業との共同研究や実証実験を加速させます。

3.11 復興への願い

復興のその先へ
東日本大震災 被災地はいま。

～復興リレーメッセージ 第10回 岩手県～

2011年3月11日の東日本大震災から12年がたちました。立命館大学校友会の東日本大震災被災地復興支援の活動は2020年3月をもって一つの区切りを迎えましたが、震災の記憶を風化させないために、“被災地のいま”を各校友会からお届けします。

久保田ゼミの学生と交流する大船渡高校の生徒

岩手県の高校教員である私は2011.3.11の震災当時、沿岸の久慈高校に勤務していた。校舎1F廊下が激しい揺れでゆがんでいた状況は今でも鮮明に覚えている。同年夏「被災生徒を学費の全額または半額免除で受入」の連絡が母校立命館大学からあり、制度を利用し数年間教え子を母校に進学させることができた。

17年には久保田崇教授（現掛川市長）率いる学生14名が当時私が勤務していた大船渡高校を訪れ、生徒たちと意見交流を行った。立命館大学と大船渡市の包括連携協定事業の一環である。この時同席した大船渡高校の同僚教員らから、学生たちの意識と能力の高さに称賛の声が上がった。

私は被災地勤務において、より母校を身近に感じ改めて立命人としての誇りと感謝の気持ちを持つことができた。上記を含めた立命館大学や校友会、関係各位の支援に衷心より感謝申し上げたい。なお、岩手県では全小中高校で「復興教育」に取り組んでいる。校友の皆さまには、来県の上復興の実態と児童生徒の懸命な取り組みをご覧いただきたい、と切に願う次第である。

立命館大学岩手県校友会
会長 宮 学（'85文）

会報と大学・校友会の最新ニュースをメールでお届けします！

年3回 校友会報「りつめい」

＼ 会報メール配信サービス登録受付中！ ／

校友会報「りつめい」最新号をメールでの受け取りに変更しませんか？

ご登録いただくと、PDFまたはデジタルブックでご覧いただけます。

本サービスに登録されますと、現在会報をお届けしているご住所への郵送はされません。ご了承ください。

- お申し込みのタイミングによっては、次々号の会報からの配信となる可能性があります。
- 会報のお届け（郵送や本サービスによるメール配信）は、立命館大学校友会の終身会費30,000円をお納めいただいている方に限ります。

＋

月1回※ 立命館Beyond Borders NEWS

＼ メールアドレスをご登録ください ／

※月1回程度（年12回程度）配信

立命館Beyond Borders NEWSとは？

- 立命館大学の教育・研究や学生に関わる最新ニュース、イベントやセミナーのご案内、校友会のイベント情報などをお届けします。
- 校友会にメールアドレスをご登録いただいている皆さまに、月1回程度メールで配信します。
（既に立命館Beyond Borders NEWSが届いている方は、新たな手続きは不要です。）

各種お手続きは、右記のご連絡先変更フォームから　● メールアドレスの登録・変更　● 会報受け取り方法の変更　など

お手続き方法

ご連絡先変更フォームにて、必要事項をご入力の上、「■立命館からのご案内について」の欄でご希望の内容を選択してください。

▶校友会報「りつめい」をメールで受け取るなら……
【会報のお届けについて】→「メールでの送付を希望する（現住所メールアドレス宛）」を選択してください。

▶立命館Beyond Borders NEWSを受け取るなら……
【メールニュース・各種ご案内について】→「案内を希望する」を選択してください。

https://alumni.ritsumei.jp/procedure/entry/

Learn as if you were to live forever.

ACR ACADEMIC CENTER OF RITSUMEIKAN

立命館 オンラインセミナー

立命館大学は、「学び」を求める全ての人に開かれた
「立命館オンラインセミナー」を2020年から実施しています。
専門家の知見が得られる、知的好奇心が満たされる、
明日の自分のチカラになる、
そんなアカデミックな「学び」を
あなたも体験してみませんか？

リスキリング＆ナレッジ講座

2023年 8月31日(木)まで 早期申込割引実施中

社会・経済、生活様式や働き方までもが急激に変化する現代。
その変化に柔軟に対応できる、しなやかでより深い知識・知恵が求められています。
「リスキリング＆ナレッジ講座」では、変化の激しい時代にあっても
揺るがぬ知識・知恵を身に付けたいと考えるビジネスパーソンの方向けの講座を開講しています。

講　師：髙橋 潔
立命館大学 総合心理学部 教授
対　象：管理職の方、総務・人事担当の方
受講料：特別価格9,600円
（通常価格12,000円）

講　師：鵜養 幸雄
一般財団法人 公務人材開発協会
業務執行理事
対　象：経営者・役員の方、管理職の方
受講料：特別価格9,600円
（通常価格12,000円）

講　師：丸山 大介
立命館大学エクステンションセンター
公務員講座 講師
対　象：若手社員・中堅社員の方、
仕事で統計学を生かしたい方
受講料：特別価格7,200円
（通常価格9,000円）

日本史探究セレクション

歴史は壮大なドラマであり、現代に生きる私たちに多くの示唆を与えてくれる学びの宝庫です。「日本史探究セレクション」では、立命館アカデミックセンターの人気講師の本郷真紹先生（日本古代史）、山崎有恒先生（日本近代史）による個性あふれる講義をお届けしています。歴史を学ぶ醍醐味をぜひ味わってください。

お申し込み方法

インターネットから
お申し込みください

学びのプラットフォームMIRAI

※電話・FAX・郵送・メールでのお申し込みはお受けしておりません。
※お支払いはクレジットカード払いのみです（JCB・VISA・Mastercard・American Expressがご利用いただけます）。

主催／立命館大学 社会連携課
住所：京都市中京区西ノ京朱雀町1

お問い合わせ／立命館アカデミックセンター事務局
E-Mail：acr02@st.ritsumei.ac.jp

INFORMATION

校友消息（2023年6月14日判明分）

叙勲

■瑞宝中綬章

木下勝一氏（'66経営）
新潟大学名誉教授

■瑞宝小綬章

東昌司氏（'71法）
元京都府中丹広域振興局長

髙谷寛氏（'75法）
元大阪区検察庁副検事

志賀和幸氏（'76法）
元京都区検察庁副検事

太田昌克氏（'76経済）
元大阪区検察庁副検事

■旭日双光章

小池義一氏（'76法）
一般社団法人
長野県食品衛生協会理事長

■瑞宝双光章

竹内寛一郎氏（'59経済）
元神戸公共職業安定所長

大寳英明氏（'70産社）
元公立中学校長

宮崎徹氏（'79経済）
元日本郵政公社職員
（特定郵便局長）

谷口正洋氏（'12院経営管理）
元信州大学医学部附属病院
放射線部診療放射線技師長

■瑞宝単光章

畑隆夫氏（'83法）
元内閣府事務官

田原由喜子氏
（'03院応用人間）
調停委員

危険業務従事者叙勲

■瑞宝双光章

谷廣泰永氏（'75法）
元京都府警視

松村和則氏（'75法）
元大阪府警視

野村幸一氏（'78法）
元京都府警部

町田善軌氏（'80理工）
元京都市消防監

■瑞宝単光章

檜山雄史氏（'81理工）
元大阪市消防司令長

南光伸彦氏（'85経済）
元３等陸尉

褒章

■黄綬褒章

北尾吉太郎氏（'51専文）
株式会社北尾吉三郎商店
会長

向井幸雄氏（'60法）
元鎌長製衡株式会社
代表取締役

松﨑定守氏（'73法）
司法書士

伊藤宏氏（'76理工）
桜ホース株式会社社長

小田切昭氏（'79理工）
羽黒工業株式会社社長

■藍綬褒章

森川美樹氏（'70法）
保護司

守屋博司氏（'70産社）
元全国飲食業生活衛生
同業組合連合会副会長

田多耀子氏（'07産社）
人権擁護委員

就任（内定含む）

津田博之氏（'82経営）
アマノ株式会社
代表取締役会長

岡垣浩志氏（'83理工）
株式会社たけびし
代表取締役社長

北村豪氏（'86経済）
株式会社JTB執行役員

山﨑学氏（'86経済）
アマノ株式会社
代表取締役社長

吉村文雄氏（'88文）
東映株式会社
代表取締役社長

降籏友宏氏（'00法）
山梨県教育委員会教育長

当選

南正文氏（'76経済）
奈良県下北山村長選挙

林佑美氏（'06院政策）
衆議院議員補欠選挙

訃報

大南正瑛氏（'54理工）
元学校法人立命館総長、
元立命館大学長、
立命館大学校友会名誉校友

松田博氏
立命館大学名誉教授
（産業社会学部）

齋藤稔正氏
立命館大学名誉教授
（文学部）

BOOKS（ご著書のご寄贈）

校友会へご寄贈いただきました
ご著書の中から一部をご紹介します。

◆松永勝彦氏（'64理工）著
『「海の砂漠化」と森と人間
―環境研究者のつぶやき』
株式会社新日本出版社
1,540円（税込）

◆西原大貴氏（'96経営）著
『「自分の可能性」を広げる
リフレクションの技術』
株式会社日本実業出版社
1,870円（税込）

◆原田知典氏（'02国関）共著
『自治体の課税担当に
なったら読む本』
学陽書房
2,750円（税込）

編集室から

せきを切ったように人が動く。3年間のコロナ禍での制限された日常から解き放たれたようにみんなの表情も晴れやかだ。2019年の日本のパスポート所有人口は約4人に1人の割合で、世界でも5～6人に1人が国境を越える旅をしていた。私自身、2023年は年またぎを含めて、早や3回パスポートを使用。SNS情報社会は、海外に出ると如実にその恩恵を感じる。世界同時進行で体験したパンデミックを乗り越え、平和だからこそ旅ができることを実感している。日本への外国人観光客はコロナ前同様の勢いで急上昇、3000万人の目標を掲げている。2年後に迫ってきた大阪・関西万博まで、現役記者として、コロナ禍の旅の変遷を踏まえた教訓を生かして発信を続けたい。（髙橋英子）

皆さまお元気でしょうか。この数年よりはるかに多い時間、マスクなしの時を過ごせるこの夏をうれしく思います。先日、“令和って、歴史の教科書の記述がやばくなるなあ……”と息子がぼそりと言いました。コロナ禍があって、ロシアとウクライナの戦争があって、天災も色んなところであって……、もう、書くことありすぎやん、と言うのです。確かに、未来の子どもたちから見ると、“この時代はこうだったんだな”と知ることになるのかと、なんだか妙に不思議な感覚になりました。このような時代に生まれたからこそ、日々胸を張れるように大切に生きてゆきたいなと思います。皆々さま、どうか健やかで豊かな日々をお過ごしくださいませ。（安井亜希）

生活者のメディア接触の現状を捉える「メディア定点調査2023」（博報堂DYメディアパートナーズ）が発表された。2006年から毎年1～2月に実施、生活者のメディア接触時間やメディア意識などを時系列分析したものだ。調査によると、メディア総接触時間は443.5分（1日当たり/週平均）。「携帯電話/スマートフォン」のシェア（34.2%）は初めて全体の1/3を超えた。続くメディアはテレビ（30.5%）、パソコン（15.5%）、タブレット端末（8%）、ラジオ（6.3%）、新聞（3.1%）、雑誌（2.3%）。多様なコンテンツを視聴できるスマートフォンは、ますますシェアを広げるだろう。この「りつめい」も、皆さまの生活の中の身近なメディアとして接触してもらえるよう工夫を凝らしたい。（山岡祐子）

今年度より、立命館大学校友会広報委員に就任した西井将哉と申します。私は現在、広報・PR業界に勤めており、仕事柄さまざまなファッション誌やメディアに触れていますが、その中で最も読み込んでいるのは校友会報「りつめい」です。担当になったから“世辞”というわけでなく、まるで“自分ごと”のように読みやすいことがポイントでした。例えば同じ学び舎に通った先輩方や同世代が、今はどのような仕事や活躍をしているのかという点について、背景にある立命館の風土や環境が理解できるからこそ、“自分ごと”のように読めるのかもしれません。皆さんにとって「りつめい」がさらに“自分ごと”になるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。（西井将哉）

＼古本を活用した新たな支援のかたちです／

BOOKS FOR BOOKS

～立命館の本活～

2013年4月から2023年5月末までに
7,478名の方々から**348,639冊**の
本をお送りいただきました。
誠にありがとうございます。
引き続き、校友の皆さまのご協力を
よろしくお願い申し上げます。

どのような仕組みですか？

以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

●ISBNのない本　※バーコードの有無は関係ありません。

ISBN見本　ISBN978-4-1234-5678-9

●百科事典　●コンビニコミック　●個人出版の本　●マンガ雑誌　●一般雑誌
●同一タイトル11点以上　●シングルCD　●投票券等特典付きCD
●児童買春・児童ポルノ禁止法（関連法令含む）に抵触する恐れのある全ての商品

〈お申し込み方法〉

① 梱包

書籍を段ボール箱に入れてください。

●恐れ入りますが、段ボール箱は各自でご用意ください。
●5点（5冊）以上から送料は無料となります。
●1回の申込箱数は3箱までとさせていただいています。
●2010年以前に出版された書籍はお値段がつかない場合が多いため、
お申し込み前に下記の申込ページをご確認の上、
お値段がつかない本をできるだけ除いていただきますようお願いいたします。

② 申込・集荷

**提携会社バリューブックスの
ホームページからお申し込みください。**

●お電話ではお申し込みいただけません。

https://www.charibon.jp/partner/ritsumei-u/

立命館の本活　検索

お問い合わせ先

学校法人立命館 総務部 寄付事務局　TEL:075-813-8110（平日9:30～17:00）
※取扱品などについての詳細は、上記のホームページの「ご利用ガイド」に掲載しています。

お申し込みに関してのお願い

買取額は市場価格等を考慮して（株）バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている書籍であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申し込みいただく際には、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。

立命館大学国際平和ミュージアムのご案内（リニューアルオープン）

リニューアルコンセプト

「戦争の記憶を共有する」、「平和創造の場となる」、「平和創造を支える調査研究活動の拠点となる」を基本コンセプトに、2023年9月23日にリニューアルオープンいたします。
過去の歴史と現在の世界を見つめることで、平和創造に向けた一歩を踏み出すきっかけとなる展示となっています。ぜひ足をお運びください。

リニューアルのポイント（常設展示室）

POINT. 1
展示室の周囲を年表展示で囲み、展示室の中心にテーマ展示を設けました。
年表展示とテーマ展示を往還することにより、学習を深めることができます。

POINT. 2
見学を通して、歴史の中の多様な課題から、現代の諸課題につながる流れをくみ取ることで、「平和」を身近なテーマとして捉えられるような構成にしています。

内観はイメージ図です

開館時間	**9月23日リニューアルオープン** 午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）
休館日	日曜日および祝日の翌日（日曜日が祝日の場合は開館、翌日が休館）、年末年始、夏期休暇中の大学が定める日
見学資料費（入館料）	一般400円／中学生・高校生300円／小学生200円 障害者手帳、被爆者健康手帳、戦傷病者手帳をお持ちの方（介助者1名を含む）は無料

※校友の皆さまは右下の校友招待券を受付に提示、または校友申請手続きで無料となります。

立命館大学 国際平和ミュージアム
〒603-8577　京都市北区等持院北町56-1　TEL.075-465-8151　FAX.075-465-7899
URL　https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/

交通ルート

JR・近鉄 京都駅より
・市バス50、快速立命館、JRバス「立命館大学前」下車、徒歩5分
・市バス205「わら天神前」下車、徒歩10分

阪急電車 西院駅より（急行停車）
・市バス205「わら天神前」下車、徒歩10分
・市バス 快速立命館「立命館大学前」下車、徒歩5分

京阪電車 三条駅より
・市バス15・51・59「立命館大学前」下車、徒歩5分
※お車でのご来館はご遠慮ください。

立命館大学国際平和ミュージアム
常設展・特別展
（校友1名様入館無料）
校友会報「りつめい」No.291
校友招待券